17 凍　傷　の　対　策

国立療養所東埼玉病院
成富明子　桧山豊子
跡治寿江　藤原みどり
大塚幸江　名地弘子

〔はじめに〕

入院中のＰＭＤ児は、障害度の　進行に伴ないその殆んどが車椅子上の生活を送っている現状である。したがって、自分の意志で動かすことの出来ない下肢は、冬期においても冷たい足板の上におかれ、凍傷に罹患する患児が多い。そこで私達は凍傷の発生予防と悪化防止を重点に、いくつかの対策を試みたので報告します。

Ⅰ　方　　法

(1)　足浴、就寝前腓腹筋部まで温湯に15分から20分位入れ充分に温める。

(2)　ホットパック、就寝時足部を包み約30分位使用する。

(3)　電気アンカ、就寝時より起床時まで使用する。

(4)　足袋、キルティング地で両足大腿部まではいる袋を作り車椅子上で使用する。

(5)　白金カイロ、市販のカイロを購入し、足袋、ブーツ等に入れて車椅子上で使用する。

(6)　ブーツ、キルティング地で腓腹筋部までのブーツを作り車椅子上ではかせる。

以上の対策にはいづれもマッサージ及び外用薬を併用しました。

Ⅱ　凍傷の発生状況

私達は凍傷の状況を把握するために、発生の部位及び大きさなどを、図１のように区分した。又、症状及び全体の状態を知るために表１のようなチエック項目を作り、記録をとった。

調査期間　　昭和51年10月より52年３月迄

対象患児　　男　患児　32名

　　女　患児　３名

各対策にどの患児を対象とするかは、カンファレンスにより選出を行ない、又症状の変化により適度に対策をかえて実施した。

1.　足浴、対策実施前と後では殆んど差はみられなかったが、患児とのコミュニケーションは非常に

図１

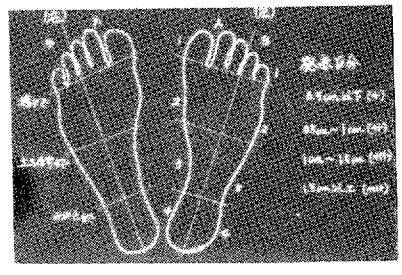
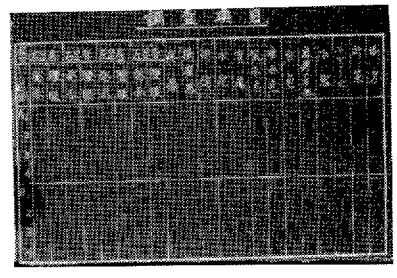


表１



良かった。

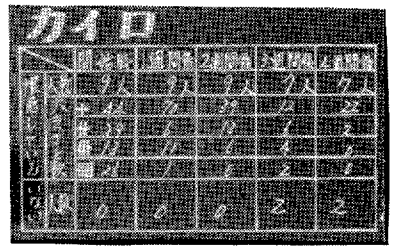
2. ホットパック、調査中に悪化した例もあり良い結果はみられなかった。

3. 電気アンカ、ベッドの中だけの保温のためか結果は良くなかった。

4. 足袋、これは日中車椅子上での保温であったが、治癒した例はなかった。

5. カイロ、足袋やブーツを使用しカイロを併用し、体温だけの保温にカイロの熱を加える事により結果を期待した。

起床時から消灯準備まで使用し、表2の様な非常に良い結果が得られた。患児からも自由時間を束縛されないため喜こばれた。介助者も、手がかからず好評だった。



Ⅲ　結果と考察

以上各対策を試み、単独の対策では治癒には至らず種々併用しなければ患児の苦痛を柔らげることは出来なかった。特に発赤、掻痒感のある患児には足浴、足袋、外用薬、マッサージ、カイロの併用が有効であった。調査期間内の凍傷の状態は大きさにおいては発赤0.5 ㎝以下が最も多く、部位は指、外側、踵部の順に発赤し、重症のものは殆んどみられなかった。

私達は、これからも種々のデーターにより調査を継続し、凍傷罹患児の減少に努めたいと思います。

18 PMD重症児の生活圏

国立療養所東埼玉病院

成　富　明　子　　前　川　光　子

村　松　直　子　　平　山　千枝子

今　井　さつき　　富　田　光　子

桧　山　豊　子

〔はじめに〕

当病院の筋ジス病棟は、開棟以来7年目になります。入院患児107名中、障害度7度8度児

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

〔はじめに〕

入院中のPMD児は、障害度の進行に伴ないその殆んどが車椅子上の生活を送っている現状である。したがって、自分の意志で動かすことの出来ない下肢は、冬期においても冷たい足板の上におかれ、凍傷に罹患する患児が多い。そこで私達は凍傷の発生予防と悪化防止を重点に、いくつかの対策を試みたので報告します。